

練馬・文化の会 会だより

共同代表：有原誠治 大内要三 小岩昌子 小沼綾子 田場洋和 吉田巳蔵
事務局：森田彦一 TEL：03-3951-4276 FAX：03-3951-0616

(会費などの郵便振替：00150-7-130265 練馬・文化の会) ホームページ <http://www.nerimabunka.com/>

**9月末から10月9日までは「沖縄」映画鑑賞で貴方の日程を埋めてください！
ねりま沖縄映画祭—6日間で14作品を5会場・施設で上映
9月28日；日大芸術学部 同30日：武蔵大
10月1日（土）、同7日（土）～9日（月、休）ココネリなど区施設**

半年以上の準備をかけて進めてきたねりま沖縄映画祭の上映作品、会場が同封チラシのようにかたまりました。昨年は9月24日から10月2日までの9日間、ギャラリー古藤をメイン会場に延べ900人を超す参加で成功しました。

今回は諸般の事情で、ギャラリー古藤が使えず、代わりに日大芸術学部と練馬駅周辺の公共施設—ココネリ、区庁舎地下多目的会議室、生涯学習センターを確保し、約10人のメンバーの実行委員が試写会を経て厳選した14作品を上映することになりました。

作品的には先島・離島を描いた作品が多く、特に与那国は「与那国カウボーイズ」、「老人と海」（ユンカーマン監督）、「はての島のまつりごと」

の3作品、宮古島の古謡・神歌にスポットをあてた「スケッチ・オブ・ミヤーク」、久高島の神事を描いた「イザイハウ」などがあります。

テレビドキュメンタリーとしては毎日放送の「さまよう木霊～基地反対運動の素顔」、琉球放送「Born Again」、元日本テレビ森口裕氏の「沖縄の十八歳」など3作品が上映されます。

文化の会幹事会では100枚近いチケット（金券）を預かっていますので、映画鑑賞希望の方は下記3人にご連絡ください。

連絡先；響田(090)9809-8591 田場(090)3238-9348
森田(090)2520-9903 (田場記)

8月24日に「真嶋経済公開講座」がスタート—興味引く内容設定の工夫が必要！

「あなたは大損をさせられている一家計・庶民を襲うアベノミクス—」のフリートークが、8月24日(木) ココネリで開かれました。講師は、練馬・文化の会の会員で國學院大學経済学部兼任講師の真嶋康雄氏でした。

「難しい経済」を「わかりやすく」説くのを信条として参加者に話をさせていただきました。

アベノミクスは成功しているのか？から始まり、株価、企業業績から、日本経済が、大企業にとっていかに有利であるか、ぼろ儲けしているか、それに対して、庶民はどれだけ利益が失われているか。消費税8%などで庶民の生活が厳しさを増す一方、内部留保や海外備蓄などで大企業は大儲け、その格差がどんどん広がっている経済の実情が詳細なデータに基づいて明らかにされました。但し、

データについての丁寧な説明があまりなく、使用したパワーポイントの字数が小さかったことなどもあって、参加者にとっては、難しく、よくわからなかったというアンケートの結果も見られました。次回以降は事前に真嶋氏と幹事の間で、もっとわかりやすいチラシ、資料、トークにすべく事前の徹底した準備が求められているように思いました。これからは、庶民の目線で、もっともっとわかりやすい講義をめざす必要があります。今回配布した第3回の「経済講座」を含め幹事による徹底した読み込みから始める必要があります。

今回の第1回の学習会の参加者は30名を越しましたが、意外に会員外の人が多かったのが特徴でした。次回は、10月後半に行います。日時、場所は追ってお知らせいたします。(森田記)

第6回迎える「練馬の明日をひらく文化フェスタ」 10月14日（土）後1時～生涯学習センターで開催へ

「文化を力に」をテーマに第6回「練馬の明日を開く文化フェスタ」が10月14日(土)13:00から練馬生涯学習センターで行われます。

文化フェスタは、地元の人たちが演じると同時にゲストに落語家の八光亭春輔氏の落語。ピアノ

と朗読に日色敏子さんと安藤美和子さんを迎える。参加者は演目は他にフォークソング、オカリナ、沖縄三線、朗読など多彩に演じます。参加協力は700円。連絡は森田彦一まで (090-2520-9903) (森田記)

**8月14日—20日 上野東京都美術館 471点出品 来場者は5000人突破
65周年記念 平和美術展 大盛況で終了！
美術家平和会議 事務局長 吉田 巳蔵**

すべてのいのちを大切に・平和の壁に花一輪を・日本を戦争する国にさせないを主旨に65周年記念平和美術展が8月14日から20日まで上野の東京都美術館において開催しました。出品者国内220名、海外11名の計231名で429点、この他、被爆者肖像画、遺作、小品即売を合わせ合計471点が出展されました。来場者は、雨の日が多い中、7日間で5005人来観あり大盛況でした。



今回は、「子どもたちへのメッセージ」を特別企画し、未来を担う子どもたちが戦争などの犠牲にならないためにも平和の大切さを発信しました。感想文からある中学生は「絵をとおして平和を伝えることを初めて知りました」、60代の方は、書の作品の中の詩から「戦争を二度と繰り返してはならないと強く伝わり胸を打ちました」など。また遠く富山から新聞広告を見て来られ「とても素晴らしい展覧会で来年は出品したい」と言われ帰られました。被爆者肖像画は、4人の方が辛い思いを背負いながらも平和への強い思いを忘れず生きて来られたことは、ご遺族からのコメントから深く伝わり涙を誘われました。記念講演で人形劇団プークの井上幸子さん（制作部 演出）による「子どもの文化とプークのあゆみ」は、プークの弾圧の歴史や各演劇界への草分け的存在として影響を与える

など一人芝居もあり笑いと涙で感動し、文化がそこから生きる勇気を与えていることに感銘。

ギャラリートークも会場は、満員。4人の方が、作品をとおして命や平和の大切さを自身の体験から語り胸を打ちました。初出品者交流会は、参加者の一人が、戦争孤児として3人の母親に育てられた話は涙を誘われました。実の母は戦争で亡くなり、次に引き取られた育ての親もすぐ亡くなり、家もなく学校にも行けず、行けば「くさい」といじめられ傷だらけに、その時3番目にあたる知らない女性が助けてくれ、大阪から東京に上京するも義理の父からは、仕事をしろと厳しく言われ高校にも行けずその義理の母親は、夫と別れ彼を学校へ行かせるため家を出ることを話すが、彼は、学校をあきらめるからここにしようと言われ残る。しかし、その義理の母もやがて亡くなる中で、仕事をしながら必死に生きてきた話を涙ながらに語ってくれたのが心に残りました。今では彼は、家族もあり、絵が生きがいの一つのこと。こうした戦争による痛ましいお話を聞くたびに、平和の大切さとこの展覧会のもつ役割を改めて強く感じました。

練馬・文化の会の方も沢山観に来ていただきありがとうございました。また来年に向けてがんばります。



**○9月幹事会のご案内；9月16日(土)午前10時～石神井庁舎第2会議室
メインテーマ；沖縄映画祭の取り組み、眞嶋経済講座の進め方ほか
○今号から友好団体の文化の会美術展の会会員にもニュースをお届けします。**

--	--